無機物質

化学 無機物質

- ◎水素
- 1
- ②水上置換
- ④ を示す CuO+H₂ → Cu+H₂O
- ⑤燃料電池(活物質)

製法

Zn, Feなどに $Zn+H_2SO \rightarrow ZnSO_4+H_2$ 水の電気分解 $2H_2 \rightarrow 2H_2+O_2$

化合物

①常温・常圧で気体のものが多い

◎希ガス(貴ガス,18族)

低圧下で放電すると,特有の発色を示す利用:

He

①水素に次いで軽い気体 ② ,冷却剤に利用

Ar

- ① や に封入 ②金属溶接時の
- ③空気中に約

- ◎ハロゲン
- ①二原子分子で
- ②原子番号が大きいものほど,融点・沸点が
- ③ を示す 酸化力の強さ:
- F₂ ① の気体
- ②反応性が (冷暗所で水素と爆発的に反応)
- ③水と反応、フッ化水素,酸素を生成 $2F_2+2H_2O \rightarrow 4HF+O_2$
- Cl₂ ① 臭の気体
- ②水に少し溶け、 を生じる
- ③HCIOは酸化作用が強く,塩素水は に利用
- 4 紙を

製法

水でを除濃硫酸でを除めて

(2)

$$Ca(ClO)2 \cdot 2H_2O + 4HCl \rightarrow CaCl_2 + 4H_2O + 2Cl_2$$

 $CaCl(ClO) \cdot H_2O + 2HCl \rightarrow CaCl_2 + 2H_2O + Cl$ ③塩化ナトリウム水溶液の電気分解で に生成 Br₂ 体

- I₂ 光沢のある結晶
 - (加熱によって紫色の蒸気を生成)
- ③水に難溶, 水溶液に三ヨウ化物イオンを 生じて溶け、 のヨウ素ヨウ化カリウム水溶液(ヨウ素 液)に
- ④デンプンと鋭敏に反応し、 になる (ヨウ素デンプン反応)

- ○ハロゲン化水素
- ①すべて の気体
- ②水によく溶け水溶液は

HF

- ① (ポリエチレンびんに保存)
- ②沸点が比較的高く,水溶液は を示す。 製法

,加熱 $CaF2+H_2SO_4$ → $CaSO_4+2HF$

HCI

- ①水溶液(塩酸)は
- ② NH_3 と反応して NH_4 Cl) 生成(検出に利用) $HCl+NH_3 \rightarrow NH_4$ Cl

製法

- ①NaClV NaCl+H₂SO4 → NaHSO₄+HCl
- ② H_2 と Cl_2 を直接反応 $H_2+Cl_2 \rightarrow 2HCl$

HBr HI

①いずれも水に溶けやすい ②水溶液は

◎酸素O₂

空気中の約21%(体積) 収集:水上置換

製法

- ① H_2O_2 水溶液の分解(触媒: 2 H_2O_2 2 H_2O_4 2 H_2O_4 2
- ②KČlÕ₃の加熱分解(触媒:) 2KČlÕ₃→ 2KČl+3Õ₂

オゾンO3

- ① の気体 ②
- ③ が強い(を)

製法

①酸素に紫外線をあてる ②酸素中で無声放電 $3O_2 \rightarrow 2O_2$ ※オゾン層…地表から $20\sim30$ km の層

○酸化物

	①水と反応を生	$ CO_2, NO_2,$
(非金属元素の	②塩基と反応	$SO_{3} P_{4}O_{10}$
酸化物)		0, 1 10
	①水と反応して塩基を生	Na ₂ O, MgO,
(金属元素の酸	②酸と反応	CaŌ
化物)		
	①酸とも塩基とも反応	Al ₂ O ₃ , ZnO
(両性元素の酸		
化物)		

オキソ酸:分子内に酸素を含む。 HNO_3 , H_2SO_4 , H_3PO_4

化学 無機物質

◎硫黄

同素体: 、 、 、

収集:酸化物として採取

の炎を上げて燃焼S+O₂→SO₂

一番安定なのは

 SO_2

- ①無色 な気体
- ②水に 、 亜硫酸を生成
- ③ 作用、 作用(H₂Sに対しては として働く)

〈例〉 $SO_2+I_2+2H_2O\rightarrow H_2SO+2HI$ (還元剤としての働き) $SO_2+2HS\rightarrow 3S+2H_2O$ (酸化剤としての働き)

製法

- ① ,加熱 $Cu+2H_2SO \rightarrow CuSO_4+2H_2O+SO_2$
- $2NaHSO_3 + H_2SO_4 \rightarrow Na_2SO_4 + 2H_2O + 2SO_2$
- ③黄鉄鉱の燃焼 4FeS2+11O2→2Fe2O3+8SO2

 SO_3

- ①無色,針状結晶 ②
- ③水と激しく反応して硫酸を生じる

H₂SO₄ 濃硫酸

- ①無色の重い液体(密度1.84g/cm²)
- ②水で希釈すると激しく発熱
- ③ に利用 ④ に利用 (沸点338°C)
- ⑤脱水作用(HとOを2:1の割合で奪う)
- ⑥熱濃硫酸は が強(Cu,Hg,Agと反応,SO₂を発生)

希硫酸

- ① 強酸性(多くの金属と反応して H₂を発生)
- ②硫酸塩には水に溶けやすいものが多い

(ただし

③鉛蓄電池の電解液

工業的製法



発生→水に溶かす

*実際には、 SO_3 を濃硫酸に吸収させて にしたのち、これを希硫酸に加えて濃硫酸としている。

H_2S

- ①無色、 な気体
- ②水溶液は<u>弱酸性 H</u>₂S → 2H+S
- ③可燃性、 を示す 〈例〉 HS+I₂ → S+2HI
- ④多くの金属イオンと反応して,硫化物を沈殿

〈例〉
$$Pb^{2+}+H_2S \rightarrow PbS(黒) + 2H+$$

 $Cu^2++H_2S \rightarrow CuS(黒) + 2H$

製法

$$FeS+H_2SO_4 \rightarrow FeSO_4+H_2S($$

◎窒素

 N_2

- ①無色,無臭の気体 ②空気中の約78%(体積)を占める
- ③水に溶けにくい

亜硝酸アンモニウム水溶液を加熱 $NH_4NO_2 \rightarrow 2H_2O + N_2$

工業的製法

NO

- ①無色で,水に の気体
- ② を生成 $2NO+O_2 \rightarrow 2NO_2$ 製法

 $3\text{Cu}+8\text{HNO}_3 \rightarrow 3\text{Cu(NO)}_2+4\text{H}_2\text{O}+2\text{NO}$

 NO_2

- ① ,刺激臭の な気体
- ②常温で と平衡2NO₂(赤褐色)→2N2O₄(無)
- ③水に溶けて硝酸を生じる(酸性雨の一因) $3NO_2+H_2O \rightarrow 2HNO_3+NO$

製法

$$Cu + 4HNO_3 \rightarrow Cu(NO_3)_2 + 2H_2O + 2NO_2$$

HNO_3

- ①無色,揮発性の液体
- ② がある ③ (に保存)
- ④濃硝酸(約61%),希硝酸ともに が強い(Cu,Hg,Ag溶解)
- 5濃硝酸はなどに
- ⑥硝酸塩はすべて水に溶ける。
- 工業的製法

$$4NH_3+5O_2 \rightarrow 4NO+6H_2O$$
(触媒:Pt)
 $2NO+O_2 \rightarrow 2NO_2$ $3NO_2+H_2O \rightarrow 2HNO_3+NO$
 $\Rightarrow NH_3+2O_2 \rightarrow HNO_3+H_2O$

NH_3

- ①無色,刺激臭の気体
- ②水に極めてよく溶け,水溶液は弱塩基性
- ③HCIと反応して 生成(検出に利用) NH₃+HCl → NH₄Cl
- ③窒素肥料の硫安(NH₄)₂SO₄ や尿素 CO(NH₂)₂の原料 製法 アンモニウム塩と強塩基の加熱 2NH₄CI+Ca(OH)₂→CaCl₂+2H₂O + 2NH₃(弱塩基の遊離) 工業的製法

 $N_2+3H_2 \rightarrow 2NH_3$ (触媒:

◎リン 黄リンP4① ② ② ② ③ ④③ 本リンP① ②粉末③無毒④

$$P_4O_{10}$$

- ① (乾燥剤や脱水剤として利用)
- ②水に溶かして加熱するとリン酸になる $P_4O_{10}+6H_2O\rightarrow 4H_3PO_4$ リンの燃焼 $4P+5O_2\rightarrow P_4O_{10}$

H_3PO_4

①無色結晶,潮解性②3段階に電離 $H_3PO_4 = 3H + PO_4^{3-1}$

リン酸塩

- ①リン酸カルシウム $Ca_3(PO_4)_2$ は骨や歯の主成分
- ②リン酸肥料 過リン酸石灰(Ca(H₂PO₄)₂とCaSO₄との 混合物)

重過リン酸石灰(Ca(H₂PO₄)₂)

◎炭素

ダイヤモンド 共有結合の結晶 がよい。 黒鉛 共有結合の結晶 がよい。 無定形炭素 なども

CO

- ①無色無臭で、難溶有毒な気体
- ②可燃性(_____)

製法

,加熱HCOOH → H_2O+CO

 CO_2

- ①無色無臭の気体
- ③水に溶けて炭酸を生じ、弱酸性 $CO_2 + H_2O \rightarrow H^+ + HCO^-$
- ④石灰水を白濁(CO_2 の検出) $Ca(OH)_2 + CO_2 \rightarrow CaCO_3 + H_2O$

製法

炭酸塩に塩酸 $CaCO_3 + 2HCl \rightarrow CaCl + H_2O + CO_2$ 工業的製法 $CaCO_3 \rightarrow CaO + CO_2$

- ◎ケイ素
- Si ①かたく,触点の高い共有結合の結晶②半導体 SiO₂
- ①石英,水晶,ケイ砂として
- ②結晶
- ③NaOHやNa₂CO₃とともに融解 SiO₂+2NaOH→ NaSiO₃+H₂O

H_2SiO_3

- ① に塩酸を加えると、白色のケイ酸 H₂SiO₃が生成 Na₂SiO₃+2HCl → H₂SiO₃ +2NaCl
- ②ケイ酸を加熱して乾燥→ (乾燥剤)が生成

◎乾燥剤と気体の性質

濃硫酸、 P_4O_{10} :酸性

中性、酸性の気体に濃硫酸は不可)

CaO、ソーダ石灰:塩基性:中性塩基性の気体

CaCl₂:中性

中性、酸性、塩基性の気体(

は不可)

ソーダ石灰はCaOとNaOHの混合物を加熱したものである。 シリカゲルは、水蒸気とともに目的の気体も吸着すること が多いため、一般に気体の乾燥には不適

炎色反応

Li Na K Cu Ca Sr Ba

リアカーなきK村動力借るとするもくれない馬力

化学 無機物質 26

- ◎アルカリ金属 Li, Na, K, Rb, Cs, Fr
- ・銀白色の金属、融点が低。密度が小さく、やわらかい水と激しく反応し、水素H₂を発生、
- ・炎色反応
- ・水や酸素と反応しやすいので、に保存

◎ナトリウムの化合物

NaOH

を示す

CO₂と反応、炭酸塩を生成 2NaOH+CO₂→ Na₂CO₃+H₂

製法

 $2NaCl+2H_2O \rightarrow 2NaOH+H_2O+CO_2$

Na₂CO₃

- ①白色粉末,炭酸ソーダ ⑤ガラスの製造に利用
- ③酸と反応して, CO_2 を発生 $Na_2CO_3+2HCl \rightarrow 2NaCl+H_2O+CO_2$
- ④十水和物 Na_2CO_3 - $10H_2O$ は風解して,一水和物 $Na_2CO_3 \cdot H_2O$ に変化

工業的製法

NaHCO₃

- ①白色粉末,重曹(重炭酸ソーダ) ③熱分解して、CO₂、水
- ④酸と反応して、CO₂を発生 NaHCO₃+HCI → NaCl+H₂O+CO₂
- ⑤に利用

◎アルカリ土類金属(Be,Mg以外の2族元素) Ca, Sr, Ba, Ra Be,Mg

①常温の水と反応しない、 と反応

(2)

③炭酸塩:白色で水に難溶(塩酸に可溶)

硫酸塩:水に可溶

Ca, Sr, Ba, Ra ①常温で水と反応し、水素H₂を発生

②炎色反応:

③炭酸塩:白色で水に難溶(塩酸に可溶CaCO₃ BaCO₃)

硫酸塩:白色で水に難溶(塩酸に不溶) CaSO₄ BaSO₄

化学 無機物質

- ◎カルシウムの化合物
- CaO ①白色固体(______)
- ②塩基性酸化物 CaO+2HCl → CaCl₂+H₂
- ③水と反応して発熱 CaO+H₂O→Ca(OH)₂
- Ca(OH)₂ ①白色粉末(②石灰水
- ③石灰水にCO2を通じると白濁(CO2の検出) $Ca(OH)_2+CO_2 \rightarrow CaCO_3+H_2$

CaCO₃

- ① や大理石
- ②強熱すると熱分解CaCO₃ → CaO+CO₂
- ③塩酸に溶、CO₂を発生 CaCO3+2HCl → CaCl₂+H₂O+CO₂
- $4CO_2$ を含む水に溶ける CaCO₃+CO₂+H₂O → Ca(HCO₃)₂
- ⑤セメントやガラスの原料

CaSO₄

- ①天然に として産出
- ②約 Cで焼きセッコウに変化 CaSO₄・2H₂O

CaCl₂

- ①水への溶解性,吸湿性が大 ②乾燥剤
- 3

 $Ca(ClO)_2 \cdot 2H_2O$

- ①Ca(OH)2に塩素を吸収させて製造
- ②塩酸と反応して塩素発生 $Ca(ClO)_2 \cdot 2H_2O + 4HCl \rightarrow CaCl_2 + 4H_2O + 2Cl_2$

◎亜鉛・水銀・アルミニウム・スズ・鉛

:両性元素、酸化物、水酸化物は、それぞれ両性酸化物、両性水酸化物であり,酸とも塩基とも反応

◎亜鉛

Zn ①銀白色の金属で,酸にも塩基にも溶ける $Zn+2HCl \rightarrow ZnCl_2+H_2$ $Zn+2NaOH+2H_2O \rightarrow Na[Zn(OH)_4]+H_2O$

 $\widehat{(2)}$

③ 御板に亜鉛をめっき),乾電池, (銅と亜鉛)

ZnO

- ①白色粉末 $2Zn+O_2 \rightarrow 2ZnO$ ②両性酸化物
- ③白色顔料,軟こう

Zn(OH)2 ①白色固体 ②両性水酸化物

③アンモニア水に溶ける $Zn(OH)_2 + 4NH_3 \rightarrow [Zn(NH_3)_4] + 2OH$ -

◎水銀

Hg

- ①銀白色の液体の金属 ②合金()をつくる
- ③蒸気は強い

HgS

- ①黒色。加熱すると赤色に変化
- ②朱色の顔料として利用

塩化水銀(II) $HgCl_2$: 昇汞とも。無色、水に溶けやすい。 猛毒

塩化水銀(I)HgCl:甘汞とも。無色,水に溶けにくい

- ◎アルミニウムとその化合物
- Al①銀白色の金属。酸にも塩基にも溶ける

$$2Al+6HCl \rightarrow 2AlCl +3H_2$$

 \bigcirc

 $2Al+2NaOH+6H_2O \rightarrow 2Na[Al(OH)_4] +3H_2$

- ③濃硝酸によって
- 4 , 1円硬貨

製法 (主成分の組成 $Al_2O_3 \cdot nH_2O$)から得られた Al_2O_3 を融解した氷晶石 Na_3AlF_6 に溶かし、炭素電極を用いて

陰極: Al+ +3e- → Al

陽極: $C+O^2- \rightarrow CO_2+2e- C+2O- \rightarrow CO_2+4e-$

 Al_2O_3

- ①白色粉末, ともよばれる $4Al+3O_2 \rightarrow 2Al_2O_3$
- ②両性酸化物 $Al_2O_3+6HCl \rightarrow 2AlCl_3+3H_2O_3$
- ③難溶性,高融点

 $Al_2O_3 + 2NaOH + 3H_2O \rightarrow 2Na[Al(OH)_4]$

4

の主成分

Al(OH)₃①白色固体

②両性水酸化物 $Al(OH)_3 + 3HCl \rightarrow AlCl_3 + 3H_2O$ $Al(OH)_3 + NaOH \rightarrow Na[Al(OH)_4]$

 $AlK(SO_4)_2 \cdot 12H_2O$ ①無色,

ともいう ②

◎スズ・鉛とその化合物

Sn

- ①白色の金属
- ②両性元素 ③SnCl₂・2H₂O は無色の結晶で,還元作用
- 4

Pb

- ①灰白色の金属 ②やわらかく、密度が大 ③
- ④塩酸や希硫酸には表面に不溶性の塩を生、難溶(硝酸に は可溶)
- <u>(5)</u>

鉛蓄電池:

Pb²+の沈殿 PbCl(), PbSO₄ () PbS(), PbCrO₄ ()

- ◎遷移元素
- ①周期表の 族 ②隣り合う元素は性質が類似
- ③金属元素 ⑥最外殻電子は で、酸化数は複数
- ⑦錯イオンをつくる⑧有色のものが多い。⑨触媒になる
- ◎錯イオン

配位子が金属イオンと配位結合することによって生じるジアンミン銀(I)イオン $[Ag(NH_3)_2]^+$:無色:直線形テトラアンミン銅(II)イオン $[Cu(NH_3)_4]^{2+}$: : 正方形テトラアクア銅(II)イオン $[Cu(H_2O)_4]^{2+}$: : 正方形テトラアンミン亜鉛(II)イオン $[Zn(NH_3)_4]^{2+}$: 無色:正四面体形

テトラヒドロキシド亜鉛(II)酸イオン[Zn(OH)₄]²⁻:無

色:正四面体形

ヘキサシアニド鉄(II)酸イオン[Fe(CN)₆]⁴⁻: : 正

八面体形

ヘキサシアニド鉄(II)酸イオン $[Fe(CN)_6]^{3-}$: 正八 面体形

*テトラヘキサは配位子の数2,4,6を表す。

*アクア錯イオンは水を省略して示すことが多い。

⑤Fe

①銀白色の金属②塩酸や希硫酸に溶③濃硝酸には製法 溶鉱炉で鉄鉱石(赤鉄鉱など)を還元

 $Fe2O3+3CO \rightarrow 2Fe+3CO2$

(炭素約4%)…もろい、鋳物

(炭素0.02~2%)…ねばり強い,鋼材

Fe₃O₄① の結晶②磁鉄鉱の主成分

Fe₂O₃① の結晶②赤鉄鉱の主成分

FeSO₄①結晶は七水和物() ②水に溶けて Fe²+()

FeCl₃①結晶は六水和物() ②水に溶けてFe3+ ()

K₄[Fe(CN)₆]① の結晶②水溶液は

K₃[Fe(CN)₆]① の結晶②水溶液は

化学 無機物質

	OH-	$K_4[Fe(CN)_6]$	$K_3[Fe(CN)_6]$	KSCN
Fe ²⁺			濃青色沈殿	変化なし
Fe ³⁺		濃青色沈殿		

- ◎銅Cu
- ①赤味 ②展性・延性に富む ③熱・電気の良導体
- ④湿った空気中でさび()を生じる
- ⑤塩酸や希硫酸とは反応せず、 には可溶
- ⑥銅の合金 (ブロンズ)CuとSn, (真)CuとZn
- 製法 CuFeS2→ CuS→粗銅 Cu→純銅Cu
- *粗銅を陽極、純銅を陰極にして硫酸酸性の硫酸銅(II)水溶液中で電気分解。粗銅中の鉄やニッケルなどはイオンとなって溶け出る、金や銀などはイオン化せず、

- CuO ①黑色粉末
 - ②塩基性酸化物。酸に溶ける

 $CuO+H_2SO_4 \rightarrow CuSO4+H2O$

- ③を空気中で加熱2Cu+O2→2CuO
- ④強熱で酸化銅(I)Cu2O(____)
- CuSO₄①五水和物は青色結晶。加熱で無水塩
 - ②無水塩は白色粉末
 - ③無水塩は水に触れると青色(水の検出に利用)

- ◎銀
- Ag①銀白色 ②展性・延性 ③熱・電気の伝導性は最大
 - ④塩酸や希硫酸とは反応せず、硝酸や熱濃硫酸には可溶
 - Ag+2HNO3 → AgNO3+H2O+NO2(濃硝酸)
- Ag_2O \bigcirc $2Ag + 2OH \rightarrow Ag2O + H2O$
- *AgOH は不安定で、ただちに Ag2Oになる
- ①光で分解して銀を生成水に難溶(AgFは可溶)
- ③ NH3水に溶ける(AgIは難溶)
- ④Na2S2O3水溶液に溶ける⑤AgBr は

◎クロム・マンガン Cr①銀白色の金属②かたくて融点が高③腐食しにくい ④クロムめっき 2CrO42-+2H+⇌Cr2O72-+H2O $K_2CrO_4(1)$ ②金属イオンと沈殿生成 PbCrO4(),Ag2CrO4() = CrO2-((2)Cr2O72-($K_2Cr_2O_7$ (1) ③硫酸酸性で強い酸化作用 の金属②かたいがもろい Mn(1) MnO_2 (1) ②酸化作用3H2O2やKCIO分解の触媒 ④乾電池の正極活物質

②水溶液は赤紫色(MnO₄による)

③硫酸酸性で強い酸化作用

の結晶

 $KMnO_4(1)$

◎水溶性の塩と難溶性の塩

硝酸塩:すべて水にとけやすい。

塩化物: などを除いて、水に溶けやすい(は光で分解NH3水に可溶、 は熱水に溶解)

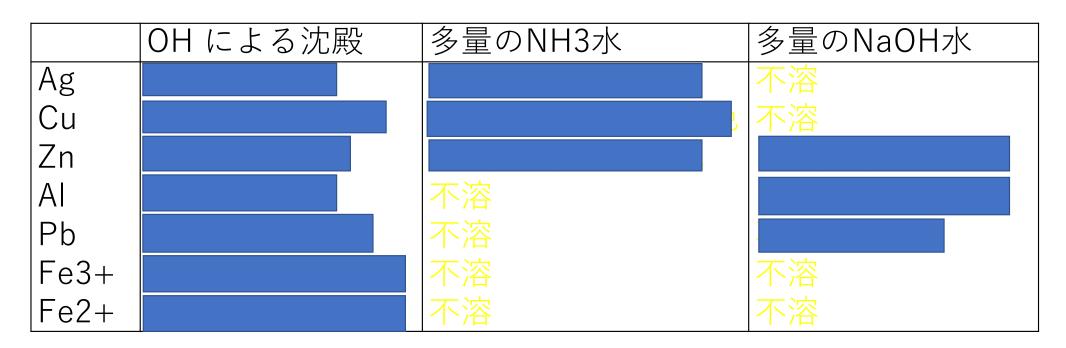
硫酸塩: などを除い

て、水に溶けやすいものが多い。硫酸塩の沈殿は塩酸に溶けない。

炭酸塩: にくい。炭酸塩の沈殿は塩酸に溶ける。

クロム酸塩: などは沈殿 などれた などは沈殿 *アルカリ金属やアンモニウム塩、酸塩もすべて水に可溶

◎水酸化物の沈殿と錯イオン*[Pb(OH)4]2-、[Pb(OH)3]-など、いろいろなイオンを形成して溶解する。



◎硫化水素による硫化物の沈殿 金属イオンを含む水溶液に 硫化水素 H2Sを通じる

*Cuの炎色反応は である。

酸性、中性、塩基性	中性、塩基性	沈殿を生じない(炎 色反応)
	,	

尿素

化学 無機物質 50